

# ひょうごの 遺跡

平成24年(2012)  
3月23日発行

82  
号

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1  
TEL. 079-437-5589 FAX. 079-437-5599  
ホームページアドレス  
<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>

兵庫県立考古博物館

## 平成23年度下半期 発掘調査の成果



### 目次

- 中世多田荘の集落跡 - 広根遺跡 (猪名川町) -
- 有馬川沿いの弥生時代末の集落跡 - 平田遺跡 (神戸市) -
- 三原平野最大の竪穴住居跡 - 鐘原遺跡 (南あわじ市) -
- 淡路島の弥生時代環濠集落跡 - 横入遺跡・田井A遺跡 (淡路市) -
- 弥生時代中期から古墳時代後期の大規模集落跡  
- 有年牟礼・井田遺跡 (赤穂市) -
- 中世の畑地 - 坂本・土井畑遺跡 (多可町) -
- 縄文時代の住居跡・貯蔵穴・埋葬遺構 - 波賀野遺跡 (篠山市) -



## 中世多田荘の集落跡 広根遺跡 (川辺郡猪名川町広根)

新名神高速道路建設に伴って今年度より発掘調査を開始しました。今回の調査では主として鎌倉時代から室町時代にかけての集落跡が見つかりました。

鎌倉時代の集落跡は北向きの緩斜面にあり、川の合流点をのぞむ位置に立地しています。このうち斜面の上方には掘立柱建物の屋敷が建ち並び、中国製施釉陶器の壺などが出土しています。低い谷部では水田跡や石積みの井戸のほか、水田の近くで火葬跡も発見されました。また、室町時代の石組み土坑や井戸も見つかっています。

猪名川町広根一帯は、源氏の祖、源<sup>みなもとの</sup>（多田）満仲<sup>みつなか</sup>によって開発された「多田荘」の荘域に含まれます。「多田荘」は満仲の時代には満仲の私領として開発されましたが、満仲の没後、摂関家に寄進され、近畿地方でもとりわけ大きな荘園となります。「多田荘」はその後、荘園領主が次々に代わりますが、多田源氏の一族郎党はそのまま土地に残り、荘官<sup>しょうかん</sup>や名主<sup>みょうしゅ</sup>となったとみられていますので、この遺跡も多田源氏に深く関係した集落といえます。多田神社の古文書に「井谷佐藤太入道<sup>いたにさとうたにゅうどう</sup>」の人名が記されていますが、今回の調査区の字名は「井谷<sup>いたに</sup>」「向垣内<sup>むかいがきうち</sup>」と呼ばれており、多田源氏家臣の子孫がこの地に屋敷を構えていた可能性が高いことを示していると思われます。谷水田を開発し、屋敷を構え、墓を作って土地に根付いた多田源氏一党の末裔の姿が浮かび上がります。今後も引き続き調査を行いますので、集落全体の様子がさらに明らかになっていくものと期待されます。

また、調査では縄文時代の集石土坑や石囲炉、平安時代の建物跡や鍛冶炉なども見つかっています。



鎌倉時代の屋敷跡



鎌倉時代の井戸



鎌倉時代の火葬跡



柱穴から出土した宋銭



室町時代の石組み土坑



## 有馬川沿いの弥生時代末の集落跡

平田遺跡 (神戸市北区道場町)

新名神高速道路建設に伴い発掘調査を行いました。遺跡は有馬川沿いの段丘上に位置しています。遺跡地は後世の水田開発などによりかなりの部分が削平されていましたが、調査の結果、段丘上を中心に弥生時代末の竪穴住居跡2棟、中世の掘立柱建物跡1棟、溝などを発見しました。竪穴住居跡は平面が方形で、床面には住居内を区画する溝や炭の入った土坑があり、うち1棟の床面からは高杯が出土しました。今回調査した範囲は遺跡の北端にあたり、遺跡の中心は南側にあると思われます。



竪穴住居跡



遺跡全景

## 三原平野最大の竪穴住居跡

鐘原遺跡 (南あわじ市神代国衛)

広域営農団地農道整備事業に伴い発掘調査を行い、弥生時代後期の円形と方形の竪穴住居跡5棟を発見しました。方形竪穴住居はいずれも東壁際中央付近に土坑をもっています。円形竪穴住居跡1棟は、全体の半分しか発掘できませんでしたが、直径約13mと推定される大型の円形住居です。三原平野では木戸原遺跡で径11mの大型円形住居跡が発見されていますが、今回発見された円形住居跡はそれを超えるもので、今のところ三原平野では最大の大型円形住居跡となります。この大型住居跡は集落の中心的な施設の可能性があります。今回の調査地周辺にも住居跡が広がっているものと思われ、鐘原遺跡は三原平野の中でも規模の大きな集落と考えられます。



円形竪穴住居跡



竪穴住居跡群



## 淡路島の弥生時代環濠集落跡 横入遺跡・田井A遺跡（淡路市志筑）

横入遺跡・田井A遺跡は、志筑川と宝珠川に挟まれた沖積平野に位置しており、遺跡北西側の丘陵には、淡路最古の寺院跡とされる志筑廃寺（7世紀末創建）があります。志筑川床上浸水対策特別緊急事業に伴い発掘調査を行いました。

### 弥生時代前期の水路堰と中期の環濠 横入遺跡

川底に杭を打ち込んだ弥生時代前期の堰の跡、弥生時代中期の集落を囲む環濠と推定される2本の溝、古墳時代中期の祭祀に関連する土坑などがみつかっています。弥生時代前期の堰は淡路では2例目で、当地域の弥生初期の水稲耕作を考える上で極めて重要な発見です。また、中期の2本の環濠は同時期に存在したものではありませんが、ともに調査区の北側にあった集落を囲んでいたものでしょう。

古墳時代の土坑は、4基を発見しました。うち3基からは、口を打ち欠いたり胴や底の部分を穿孔した土師器（壺・甕・高杯など）がまとまって出土しています。祭祀に使用した土器類を廃棄した場所と思われます。



弥生時代の環濠



古墳時代土坑内の土師器

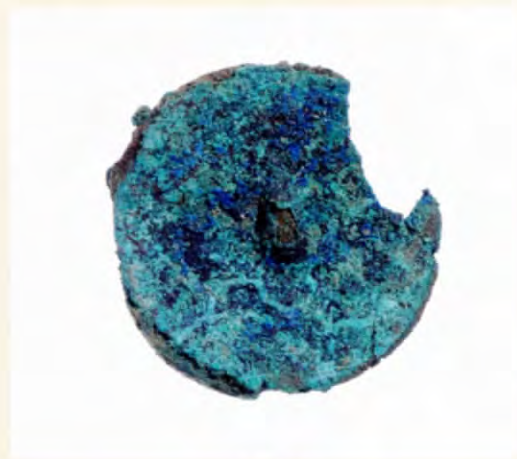
### 飛鳥時代の方形区画水田 田井A遺跡

上層に平安時代の溝、下層で飛鳥時代末頃と推定される水田跡が見つかりました。下層の水田跡は、大畦と小畦で規則的な長方形に区画されています。区画は隣接する志筑廃寺の遺構と同じ方向であることから、寺を造営した氏族が関係したのかも知れません。なお水田面からは人や牛と考えられる足跡が発見されました。

また、奈良時代の洪水砂層から径4cmの小型鏡が出土しています。鏡の年代はその特徴から古墳時代のものと推定されます。そのほか、奈良～平安時代の旧河道から人形や舟形などの木製祭祀具が出土していますが、本格的な調査は来年度に行う予定です。



方形区画水田



小型鏡



# 弥生時代中期から古墳時代後期の大規模集落跡 有年牟礼・井田遺跡（赤穂市有年）

国道2号線の相生有年バイパス工事に関連して平成21年度から調査を行っています。今夏の調査では、弥生時代中期後半（1世紀初頭頃）、古墳時代前期（3世紀後半頃）、古墳時代後期（7世紀初頭頃）の竪穴住居跡が合計14棟発見され、弥生時代の流路や古墳時代の溝などから多くの土器などが出土し、小型鏡も発見されました。

弥生時代の竪穴住居跡は7棟が円形、1棟が方形のものです。うち1棟の直径は9.5mで約71㎡もの面積がある一方で、小さなものはわずかに直径4mにすぎません。古墳時代前期の竪穴住居跡は2棟あり、どちらも方形で調査区西部にありました。

古墳時代後期の方形住居跡には壁際にカマドが造りつけられていました。

古墳時代の竪穴住居跡は、柱の痕跡がなかったので、壁だけで屋根を支えた壁立ち構造の可能性があります。竪穴住居跡のほかに掘立柱建物跡もあり、長期にわたる大規模な集落跡であることがわかりました。

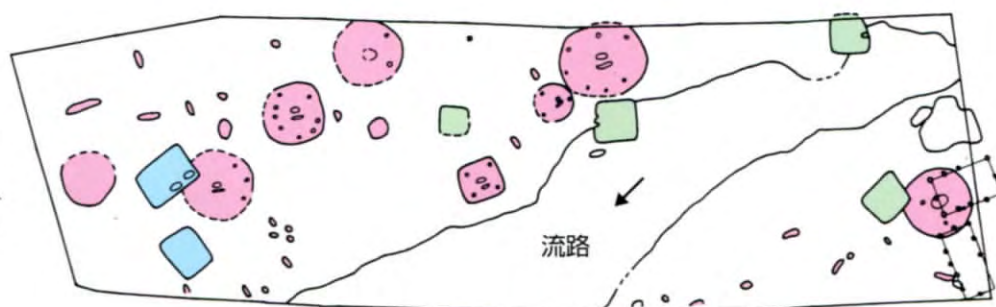
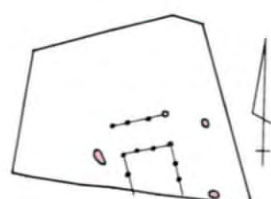


弥生時代（円形）と古墳時代後期（方形）の住居跡



古墳時代前期の竪穴住居跡

- 弥生時代中期
- 古墳時代前期
- 古墳時代後期



調査区平面図



## 中世の畑地 さなもと どいぼちけ 坂本・土井畑遺跡 (多可郡多可町中区坂本)

国道 427 号曾我井バイパス建設工事に伴う発掘調査を行い、古墳時代後期から鎌倉時代にかけてのたくさんの遺構が見つかりました。

### 平安時代末～鎌倉時代の大規模な畑地

耕作の痕跡と考えられる約 20 ～ 40cm の円形の小穴が、約 2000 個発見されました。小穴は、規則的に並んで列を作り、同一方向の複数列と等間隔に並んで大きなまとまりになることが分かりました。このまとまりは、少なくとも 13 群あり、調査区の広範囲に分布しています。広範囲にわたる規則的な耕作の痕跡から、当地に大規模な畑地が営まれていたことが明らかになりました。このような大規模な耕作痕跡の発見は、兵庫県内でもあまり例をみません。

### 平安時代末～鎌倉時代の掘立柱建物跡群

掘立柱建物跡は、合計 21 棟見つかりました。建物跡が重なっているものもあるので、すべて同時期に存在したのではなく、何度かの建て替えが行われています。これらのことは、当地に比較的大きな集落があったことを示しています。

### 奈良時代の溝

ほぼ南北方向に直線的に延びるもので、条里制に伴う可能性があります。溝の底から当時使われていた壺などが出土しています。

### 古墳時代後期の竪穴住居跡と溝

竪穴住居跡は、平面方形のものが 2 棟見つかり、住居からは土師器の甕や須恵器の杯などが出土しています。



平安時代末～鎌倉時代の耕作痕跡



平安時代末～鎌倉時代の掘立柱建物跡群



古墳時代の竪穴住居跡



奈良時代の溝



一般国道 372 号丹南バイパス道路改築事業に伴い、波賀野遺跡の発掘調査を行い、古墳時代後期の掘立柱建物跡群と縄文時代中期末～後期の遺構が発見されました。

縄文時代の遺構は掘立柱建物跡群の下層および調査区の北東部から発見されました。竪穴住居跡 1 棟やドングリなどの食料を貯蔵する袋状土坑（下の方が広がった形状の穴）2 基のほか、土器の中に遺体や骨を納めたと考えられる土器棺や土坑の上に人頭大の石を据えた配石土坑などの墓も確認されました。遺物は、縄文土器に多くみられる深鉢が大半を占め、石器ではサヌカイト製の削器や石鏃<sup>さつき</sup>の他、漁網用の石錘、調理具の石皿・すり石・たたき石、祭祀用の石棒などが出土しています。

波賀野遺跡では、縄文時代のムラを構成する 3 つの要素－住居関連（住居跡）、埋葬・祭祀関連（土器棺や配石土坑）、生産関連（貯蔵穴）－の遺構が発見されており、これは、兵庫県内において、100 余り発見されている縄文時代の遺構を伴う遺跡のうち、佃遺跡（淡路市）に次いで 2 例目と極めて少なく、縄文人の暮らしを復元するうえで貴重な発見となりました。

また、古墳時代後期（6 世紀後半）の掘立柱建物跡 6 棟が調査区の中央から発見されています。比較的小規模ながら、倉庫を備えた居住空間であり、遺跡の南東に所在する横穴式石室を埋葬主体とする波賀野古墳に葬られた首長の居館の一部であった可能性が考えられます。



縄文時代の遺構群全景



縄文時代の竪穴住居跡



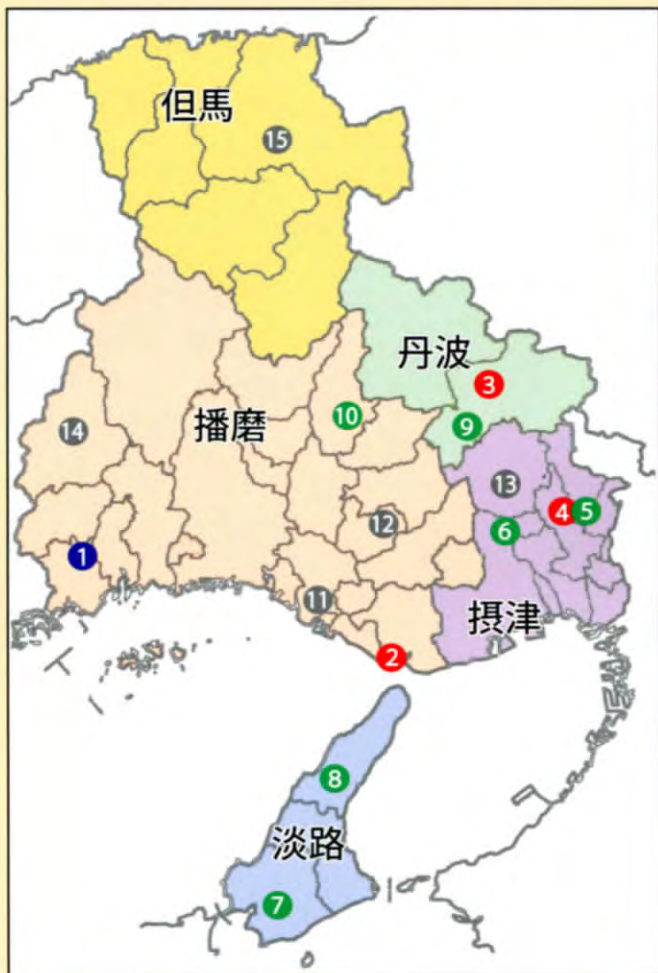
縄文時代の土器棺



縄文時代の貯蔵穴



## 今年度発掘調査を行った主な遺跡



- ① 有年牟礼・井田遺跡（赤穂市）
- ② 明石城下町町屋跡（明石市）
- ③ 西岡屋遺跡・ヤケヤノ坪遺跡・柴崎遺跡（篠山市）
- ④ 多田銀銅山猪淵谷坑道群第1号間歩（猪名川町）
- ⑤ 広根遺跡（猪名川町）
- ⑥ 平田遺跡（神戸市）
- ⑦ 鐘原遺跡（南あわじ市）
- ⑧ 横入遺跡・田井A遺跡（淡路市）
- ⑨ 波賀野遺跡（篠山市）
- ⑩ 坂本・土井畑遺跡（多可町）
- ⑪ 大塚遺跡（加古川市）
- ⑫ 豊地城跡（小野市）
- ⑬ 福島・長町遺跡（三田市）
- ⑭ 平福御殿屋敷跡（佐用町）
- ⑮ 北近畿 No.12・No.15 地点他（豊岡市）

- ひょうごの遺跡 80号掲載遺跡
- ひょうごの遺跡 82号掲載遺跡
- ひょうごの遺跡 80・82号掲載遺跡

### 開館5周年記念特別展「清盛と日宋貿易」

平清盛を中心とした平氏政権や日宋貿易の様相を示す出土品・陶磁器類などを展示します。

会 期：4月21日（土）～6月24日（日）

休 館 日：月曜日（G.W. 期間中は無休）

観覧時間：9：30～18：00（入館は17：30まで）

### 関連イベント

講演会：時間は各回とも13：30～15：00

会 場：当館講堂（定員120名・先着・無料）

4月21日（土） 「清盛像の虚実」 高橋昌明（神戸大学名誉教授）

5月12日（土） 「日宋貿易を貿易陶磁に探る」 亀井明德（専修大学名誉教授）

5月19日（土） 「中世の兵庫津に探る清盛の影」 藤田裕嗣（神戸大学大学院教授）

5月26日（土） 「平清盛と日本文化」 樋口大祐（神戸大学大学院准教授）

6月2日（土） 「平泉幕府と福原・六波羅幕府」 入間田宣夫（東北芸術工科大学教授）

6月9日（土） 「平清盛の遷都構想－和田京・小屋野京・印南野京・福原京－」

山田邦和（同志社女子大学教授）

### 編集後記

本号は「ひょうごの遺跡」の平成23年度最終号となります。「ひょうごの遺跡」は考古学を身近なものとして感じていただきたく発掘調査速報や調査成果を特集して年4回発行しています。来年度も考古学の新たな発見を通した明るい話題を提供できればと思っています。



23教P2-058A4